

広島大学学術情報リポジトリ
Hiroshima University Institutional Repository

Title	女性についてのことわざ
Author(s)	ケルト プラマニス,
Citation	日本語・日本文化研修プログラム研修レポート集, 1997 : 63 - 70
Issue Date	1998-03-31
DOI	
Self DOI	
URL	https://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/00039384
Right	
Relation	



女性についてのことわざ

ケルト・ブラマニス

はじめに

ことわざにはその社会の伝統的な考え方がどんなものかが表れている。私は日本のことわざについて研究して日本文化をもっと知りたいと思う。日本のことわざの起源を調べることで日本人の普通の考え方がどんなものか知りたい。特に、女性をどう見ているかはとても興味深い問題で、私は女性についてのことわざを調べ、私の国のことわざと比べようとおもう。

〔ことわざ〕の意味は何であるか。〔ことわざ〕の〔こと〕は言葉で、〔わざ〕は神業、離れわざ、などの〔わざ〕と同源で偽やはたらきを意味すると言われている。

ことわざは人間の生活の経験の知恵を集めたものである。ことわざは時に鋭く、時にやさしく、また時には素直に、時に皮肉に、私達にはたらきかけようとしている。ことわざの多くは短く教訓的なものである。人にしりごみさせたりする力も持っていることを忘れてはならない。

長い年の中で生まれ、たくさんの人々がことわざを使っていて、ことわざは変化していた。長い世紀の間日本は農業社会だからことわざの内容や発想や形式などが農民の査定を与える。だから昔のことわざと今日の考え方は同じではないのに考慮したほうが良い。

この研究では私は日本とエストニアの女性についてのことわざを集めて、それらをテーマによって配列してみた。できるだけそのことわざの関連や用例による使われ方をわかりやすく説明した。それらのことわざが理解されるように努めた。

I

ことわざは一般に実際的な知恵を持つ。ことわざには、日常生活を見て、自分の主張と結論を出すものがある。ことわざ似は、日常用語と寓話がよく使われる。

例えば夫婦の結びつきの強さと似たもの同士を表することわざ：

1. われなべに綴じ蓋 - 日本

Kuda pütikest, nii kaanekest - エストニア でも同じ表現。

どんな人にも、それに租応した手ごるな配偶者があるというたとえ。
(粗末な者は粗末な者と結び合わせたほうが良くいくいうたとえ。)

教訓はことわざの特徴の一つだ。ことわざは教えたり、押ししたり、推薦したりする。

例えば嫁を選ぶ時：

2. 女性もリンネルもろうそくの光の下では選ぶな - 西洋から入ってきた、日本でも使われる表現。

(暗いところでは欠点も目立たず、実際より美しく見えるものである。Western: Choose neither linen nor a woman by candlelight)。

3. 娘を見るより母を見よ - 日本

Tahad tütart naiseks tuleb enne ema kaeda - エストニアでも同じ表現。

(その母の人柄によって、その娘の人物のよしあしが分かるということ)。

4. 嫁の悪いのは六十年の不作 - 日本

Leiva äpardus nädala kahi, vilja äpardus aasta kahi, naisevõtmise äpardus on eluaegne kahi - パンの失敗は一週間、小麦の不作は一年間、嫁の不作は一生間 - エストニア

(悪い嫁をもらうと一生とり返しのつかない不幸な結果となること)

女へのアドバイス

5. 夫に涙素顔見せな ー日本 (夫に素顔見せないくらいに妻は身だしなみをよくせよ)。これに対してエストニアではそんな考え方はあまりない。

夫へのアドバイス

6. 女に白い歯は見せられぬ ー日本 ([白い歯]は笑った時に見える歯のこと。女に優しい笑顔を見せると、つけあがって男をあなごるから、見せはいけないということ)。

I I

私たちはそれぞれの国についてあるイメージを抱いている。私は日本に来る前に、日本の男女が社会的に平等な地位も同権も分かち合っているかと考えた。北ヨーロッパでは女性はうるさく全世界の女性の同権を要求している。それで日本の女性の地位に興味を起こさせる。ことわざを読んで、どんな役割を日本とエストニアの女性は社会に果たしていたかたぶんすこし明らかになるでしょう。

夫婦の分担についてのことわざ

1. 男は天下を動かし、女はその男を動かす ー西洋から入ってきた表現、日本でも使う。(女の力が偉大であるこという。Western: A man excites the world but a woman excites the man)。
Mees on naise pää, aga naine on see kael, mis pääd pöörab -
エストニア。男は頭、女はその頭を動かす首。
2. 男は家を作り、女は家庭を作る ー西洋から入ってきた表現。(夫は外で仕事に励み、妻は家事に専念するという意。Western: Men make houses, women make homes.)
3. 男は外回り女は内回り ー日本 (同じ意味)。

(4)

4. Naine ja koer peavad kodu meest ootama - エストニア。女と犬は内で男を待ちなさい。(前と同じ意味)。
5. Mees ei pea mitte süömist ootama, vaid süömine peab meest ootama - エストニア。男は食事を待ってはいけない、食事は男を待たなければならない。
6. 女は一生の苦楽他人より - 日本。(女は親・夫・子に頼るから、一生の苦楽はみな他に依存しなければならないの意味)。

I I I

多数のことわざは女性の美しさについて述べてある。どんな見方で女性の美しさを見ているか。美しさはほとんど価値がないのか、または美しさを大切にしているか。

1. 美女舌を破る - 日本。(美しい女のために君主が迷い、忠臣の言が遠ざけられることをいう)。
2. 美女は鬼より恐ろしい - 日本。(美しい女のために身を滅ぼす男性の多いことをいう)。
3. 美人の終わりは猿になる - 日本。(日本の伝説から。美女が年を取ると人一倍醜く見えるものだ)。
4. Ilu ei saa patta panna - エストニア。美しさはなべに入れられない。(美しさでけでお腹が一杯にならない)。

しかし：

5. Kuiilus naine on, vaata naise pääl - pole supil piima tarviski - エストニア。妻が美しいければ、妻を見て、なべに牛乳もいらぬ。(美しさをほめるということ)。
6. Pealt kui õun, seest kui sibul - エストニア。外はリンゴ、中は玉葱。(美人だけど心は悪いことをいう)。

日本では傾城についてのことわざも出てくる。傾城は傾国と共に、もと中国で一傾国りしめ、一城を傾けしめるような美人のことを言ったのであり。日本でもはじめはそのように用いられたが近世になって遊女のことを言うようになった。

7. 傾城の恋は金を持って来い ー日本。(傾城は売り物)。
8. 傾城の誠と卵の四角は無い ー日本。(傾城はいつも嘘をつくということ)。

I V

女性の性格とか個性についてのことわざは何百もある。私はそこから一番面白いのとよく出てくる言い方を選んだ。

女の強さと弱さを評することわざ

1. 女は弱しされど母はつよし ー日本。(子供を守ろうとする母親の強さをいったもの)。
2. 家に女房なきは火のなき炉の如し ー日本(主婦のいない家は大事なものが欠けていてさびしい)。
3. 女と白魚は子持ちになつては食えない ー日本。(白魚がまずいように、女も子持ちになると、忙しさにかまけて色気が無くなり、味気ないものである)。
4. 女七分に男三分 ー日本。(家庭での子供への感化力は母のほうが父より強い)。
5. *Emä pilli järele tantsib pere* ーエストニア。母の楽器よると家族は踊る。(母は父より強い)
6. 女ならでは夜が明けぬ ー日本。(故事から。天照大神が岩戸に隠れた時の部分。女がいないと何事もうまく進行しないことをいう)
7. 女の力と首のない石仏 ー日本。(使いみちがなく、役に立たないもののたとえ)。

(6)

8. Meesterahvale olla kulbitäis rammu antud, kuna naisterahvale teelusikaga antud ja sealtki läinud pool maha - エストニア。男性の力大カップで、女性の力は小さじでそこから半分も落ちた。(男は強い、女は弱いという意味)。

女は二重人格者だと警告することわざ。

1. 女に大事は明かされぬ - 日本。(女は小心で口を軽いということからいう)。
2. Kui tahad, et kõik ilm teada saab, räägi oma naisele- エストニア。全世界に話したい時は妻に話せ。(日本との同じ意味)。
3. 女の心と秋の空 - 日本。(女の心と秋の天候とは共に変わりやすい、愛情のさめやすさと移り気をいうことばで、[男心と秋の空]に対する男性側の反論ともいえる)。

Western: A woman's mind and winter wind change often. [女の心と冬の風]。

エストニア: 女の心と春の天候とは共に変わりやすい。Naese meel on muutlik kui kevedine ilm. (それにたいして男性側の反論もいえる: 男の心は風から。Kustpoolt tuul, sealtpoolt mehe meel.)

4. 女は化け物 - 日本。(女が化粧によって顔だち、年齢などを見違えるほど変えることをいう)。
5. 女の腕まくりと朝雨には驚くな - 日本。(女が腕をまくって脅してもこわくなし、朝雨もすぐ晴れるので、ともに驚くに当たらないことをいう)。

しかし

6. Hull on meeste riid, veel hullem naeste riid - エストニア。男の喧嘩は大変だが女の喧嘩はもっと大変だ。
7. 憎い憎いは可愛の裏 - 日本。(口で憎い憎いというのは逆に愛しているということ。男と女の間はとかくうらはらなことをいうものだということ)。

8. 女の根性は蛇の下地 - 日本。(女の本性には蛇のような執念深さがひそんでいる)。
9. Tüdrukud on koik head, ei tea kust need õelad naised tulevad - エストニア。娘はみんな優しいが、どこから邪悪な妻が来るか。(結婚する前は女性は自分の本質を見せない)。

女性の知恵について

1. 女性の知恵は鼻の先 - 日本。(女は目先のことしか見ず、遠い将来を考えないというたとえ)。
2. Naisterahva hiis pikk, miil lühikene, kiil pikk ja lagja - エストニア。女性の髪は長い、知恵は短い、舌は長い。

しかし

3. Vahest on kanapea targem kui kukel - エストニア。時々にとりがおんどりより頭がいい。

おわりに

日常われわれが口にしたり耳にしたりしている故事・ことわざ・言い伝えなどには、実にいろいろな種類のものがある。古くは日本神話の世界に基づくものもあり、古代中国に由来するものもある。また一方では比較的新しいものとして、西洋から入ってきた表現もある。日本で生きた人々の姿や社会のひずみ、発想や偏見、人間の業の深さを見るためにことわざを資料として、知識を得る。

日本のことわざについて知識を深めて、自分の国のことわざのことを考えるようになった。ことわざは一般的で伝統的な考え方を表現する。それで日本のことわざを読んで一步一步、日本人のふるまいがわかるようになった。

日本とエストニアのことわざの中には同じ表現と共通点のある考え方がよく出てくるということに私はおおいに驚いた。

この研究を始めた時には、どんな見方で女性を見るか、いろいろな思

(8)

いを持っていた。ところでことわざの世界はとても広いから、何でも好きなものを見つけることができる。一般的にはそれぞれのことわざは反対の考え方を表現することわざも持っている。それでその短い文に収集された私たちの先祖の知恵を偏見なしに楽しんで読むのが覧明である。

参考文献

1. [故事ことわざの辞典]、尚学図書、小学館
2. [新説ことわざ辞典]、大係美保著、東京堂、1959年
3. [故事・俗言ことわざ大辞典]、尚学図館、小学館、昭和五十七年
4. [VANASÕNA RAAMAT],Tallinn, Kirjastus "Eesti raamat",1984